

消化器疾患最新の治療 2011-2012

菅野健太郎・上西紀夫・井廻道夫 編集

独立行政法人 国立国際医療研究センター・国府台病院

上 村 直 実

医療の進歩は目覚ましく、著しい情報社会となった現在、最新の医療情報を正確にかつ迅速に伝達することが重要となっている。『消化器疾患最新の治療』は、2年ごとに執筆者を改めて、消化器疾患の診療に関する最新の情報を提供することを主旨とした書物である。

数多くある消化器関連書のなかでも、本書の大きな特徴は、治療に関する最新の話題を配列して掲載している『巻頭トピックス』であろう。今回は、「生活習慣病との関連に対する消化管吸収抑制薬」、「炎症性腸疾患に対する分子生物薬」、「消化器癌に対する分子標的治療」、「新しい胃癌および大腸癌の治療ガイドライン」、「C型慢性肝炎に対する新規の治療法ならびに遺伝子多型による治療法の選択」、「自己免疫性胆膵疾患の治療」、「NOTES (natural orifice trans-luminal endoscopic surgery)」が取り上げられている。いずれも現時点で最も注目されているホットな話題であり、特に若手の消化器科医師は是非にでも知っておきたい内容が満載されている。

個別の疾患に対する治療に関しては、2年の間に新たに開発された新規薬剤や治療方法が掲載されており、また、新たに担当された執筆者による異なった視点からの治療方針が丁寧に示されている。特に、最近の話題とされている診療技術や治療薬については、各項目において「TOPICS」欄を設けて、わかりやすく説明されている点は読者にとって利用しやすいものである。

さらに注目すべきは、今回の巻末付録として『診療ガイドラインの読み方』と『主な消化器系薬剤一覧表』が掲載されている点である。『診療ガイドラインの読み方』は、日本消化器病学会が作成・編集した6疾患〔GERD (gastroesophageal reflux disease)、消化性潰瘍、クローン病、肝硬変、胆石症、慢性膵炎〕の診療ガイドラインについて、診断から治療に関するフローチャートとともに、その解説がコンパクトにまとめられており、多忙な臨床現場の医師にとってはありがたいものと思われる。一方、『主な消化器系薬剤一覧表』には、消化器診療に必要な薬剤

情報がまとめて掲載されており、これも読者にとって有用性が高いものとなっている。

このように、本書は消化器疾患に関する基本的な知識・考え方および最新の診療技術や薬剤に関する説明が的確であり、消化器病学の研修を始める初学者のみならず、日々多忙な日常診療に携わっている消化器専門医にとっても必携の書と言えるものである。



●B5 頁496 2011年 定価10,500円
(本体10,000円＋税5%)

南江堂 刊 (☎ 03-3811-7239)